

# 神奈川県・愛川町 連携型中高一貫教育 実施計画

## <連携対象校>

愛川町立愛川中学校

愛川町立愛川東中学校

愛川町立愛川中原中学校

神奈川県立愛川高等学校

平成 20 年 12 月

（ 神奈川県教育委員会  
愛川町教育委員会 ）

# 目 次

I 連携型中高一貫教育の検討経緯等	1
II 連携型中高一貫教育の基本的な考え方	2
1 連携対象校	2
2 「交流・連携」から「連携型中高一貫教育」へ	2
3 目標	2
4 愛川町の多彩な教育資源を活用した地域密着型の教育活動	2
5 「連携型中高一貫教育」であることを踏まえた入学者選抜の実施	2
6 期待される効果	2
III 連携型中高一貫教育の展開方法	4
1 「交流・連携」の充実	4
2 連携型中高一貫教育としての教育活動展開へ	8
3 連携型中高一貫教育推進組織と成果の発信	14
IV 県立愛川高校での入学者選抜	15
1 「連携枠」による入学者選抜	15
2 「連携枠」以外の入学者選抜	15
(参考資料)	16
I 愛川町の概要（多彩な教育資源）	16
1 自然	16
2 歴史・文化	16
3 産業	16
II 連携対象校の概要	18
1 愛川町立愛川中学校	18
2 愛川町立愛川東中学校	19
3 愛川町立愛川中原中学校	20
4 神奈川県立愛川高等学校	21

## I 連携型中高一貫教育の検討経緯等

### <中高一貫教育の制度化>

中高一貫教育は、6年間継続した学校生活を通じて生徒の個性や創造性を伸ばすことができることや、学年の異なる生徒同士の活動をとおして豊かな人間性をはぐくむことができるなどの利点がある。

こうしたことから、これまでの中学校・高等学校に加えて、生徒や保護者が中高一貫教育も選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を図るため、国において平成11年に制度化された。

### <「県立高校改革推進計画 後期実施計画」での位置づけ>

神奈川県教育委員会では、平成10年・11年に行った中高一貫教育のあり方についての研究を踏まえ、平成16年度に策定した「県立高校改革推進計画 後期実施計画」において、中高一貫教育を位置づけた。

具体的には、6年制の県立中等教育学校2校（県立平塚中等教育学校及び県立相模原中等教育学校）を平成21年度に開校することと合わせて、既存の市町村立中学校と県立高校との連携による中高一貫教育について、市町村教育委員会に働きかけることとした。

### <愛川町での展開>

愛甲郡愛川町にある県立愛川高校は、地元からの強い設立要望に後押しされ、神奈川県「高校百校新設計画」（昭和48年度～62年度）の一環として、昭和58年に開校した。当初より地元との結びつきが強く、一時期は県立愛川高校入学者全体の7割以上が愛川町立の中学校出身者で占められた。そうした背景の中で、従来より、愛川町立3中学校及び県立愛川高校では、生徒による部活動交流、教職員による交流研修、PTA 役員の交流など、さまざまな「交流・連携」が盛んに行われてきた。

また、各校は地域との関わりも強く、地元企業での職場体験学習（愛川町立3中学校）や、地域ボランティア活動（県立愛川高校）、三増の獅子舞等伝統文化の継承（県立愛川高校）等に取り組んでいる。また、愛川町には、外国籍の生徒も多いことから、外国籍児童・生徒への対応（中・高教員による日本語指導学級担当者会議、県立愛川高校での在県外国人等特別募集）も行っている。

このような状況を踏まえて、愛川町教育委員会と神奈川県教育委員会においては、愛川町立3中学校及び県立愛川高校の間で、地域の方々に支えられながら、地域の多彩な教育資源を活用して地域密着型の「連携型中高一貫教育」を展開することについて、これまで検討を進めてきた。

## Ⅱ 連携型中高一貫教育の基本的な考え方

- 1 連携対象校
- |             |   |                     |
|-------------|---|---------------------|
| 愛川町立愛川中学校   | } | (本文中「愛川町立3中学校」という。) |
| 愛川町立愛川東中学校  |   |                     |
| 愛川町立愛川中原中学校 |   |                     |
| 神奈川県立愛川高等学校 |   | (本文中「県立愛川高校」という。)   |

### 2 「交流・連携」から「連携型中高一貫教育」へ

既に愛川町立3中学校と県立愛川高校との間で行われている生徒・教職員・PTAによるさまざまな「交流・連携」を充実させるとともに、平成21年度から、新たに「連携型中高一貫教育」としての教育活動に取り組むことによって、愛川町の多彩な教育資源（自然・文化・産業・地域の方々）の更なる活用を図りながら、より緊密な連携教育活動を展開する。

### 3 目標

自ら学び、自ら考え、自ら行動する力を育て、主体的に地域社会に貢献しようとする意欲をもった行動力あふれる人材を育成する。

### 4 愛川町の多彩な教育資源を活用した地域密着型の教育活動

上記目標を達成するため、「連携型中高一貫教育」においては、愛川町の多彩な教育資源を活用し、次に掲げる3つの取組みを柱とする地域に密着した教育活動を展開する。

- (1) 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と学力の向上 連携カリキュラム
- (2) 地域理解や地域貢献（社会参画）意識の向上 地域プログラム
- (3) キャリア教育の推進 キャリア・プログラム

### 5 「連携型中高一貫教育」であることを踏まえた入学者選抜の実施

県立愛川高校においては、愛川町立3中学校の生徒を対象として、「連携型中高一貫教育」であることを踏まえ、調査書や学力検査によらない入学者選抜を実施し、平成22年度から入学者の受入れを行う。「連携枠」による募集人数は、当面、入学者定員の2割相当とする。

「連携枠」により入学した生徒は、「連携枠」以外の入学者選抜により入学した生徒とお互いによい影響を与え合いながら、中核となってさまざまな「連携型中高一貫教育」活動に取り組むことが期待される。

### 6 期待される効果

「連携型中高一貫教育」を実施することにより、愛川町立3中学校及び県立愛川高校のすべての生徒にとって、また、愛川町にとって、以下の効果が期待される。

- (1) 愛川町立3中学校の生徒にとって
  - ア 連携カリキュラム等による、基礎的・基本的な学習を通じて、確かな学力を身につけることができる。
  - イ 愛川町立3中学校に派遣された県立愛川高校の教職員と各中学校教職員との連携による、教科学習、特別活動、部活動、課外活動等を通じて、発展的な内容を学ぶことができる。
  - ウ 県立愛川高校の生徒や教職員との交流を通じて、高校生活への関心や適切な進路選択が促進されるとともに、より豊かな人間関係構築力を身につけることができる。

(2) 県立愛川高校の生徒にとって

ア 連携カリキュラム等による、基礎的・基本的な学習を通じて、確かな学力を身につけることができる。

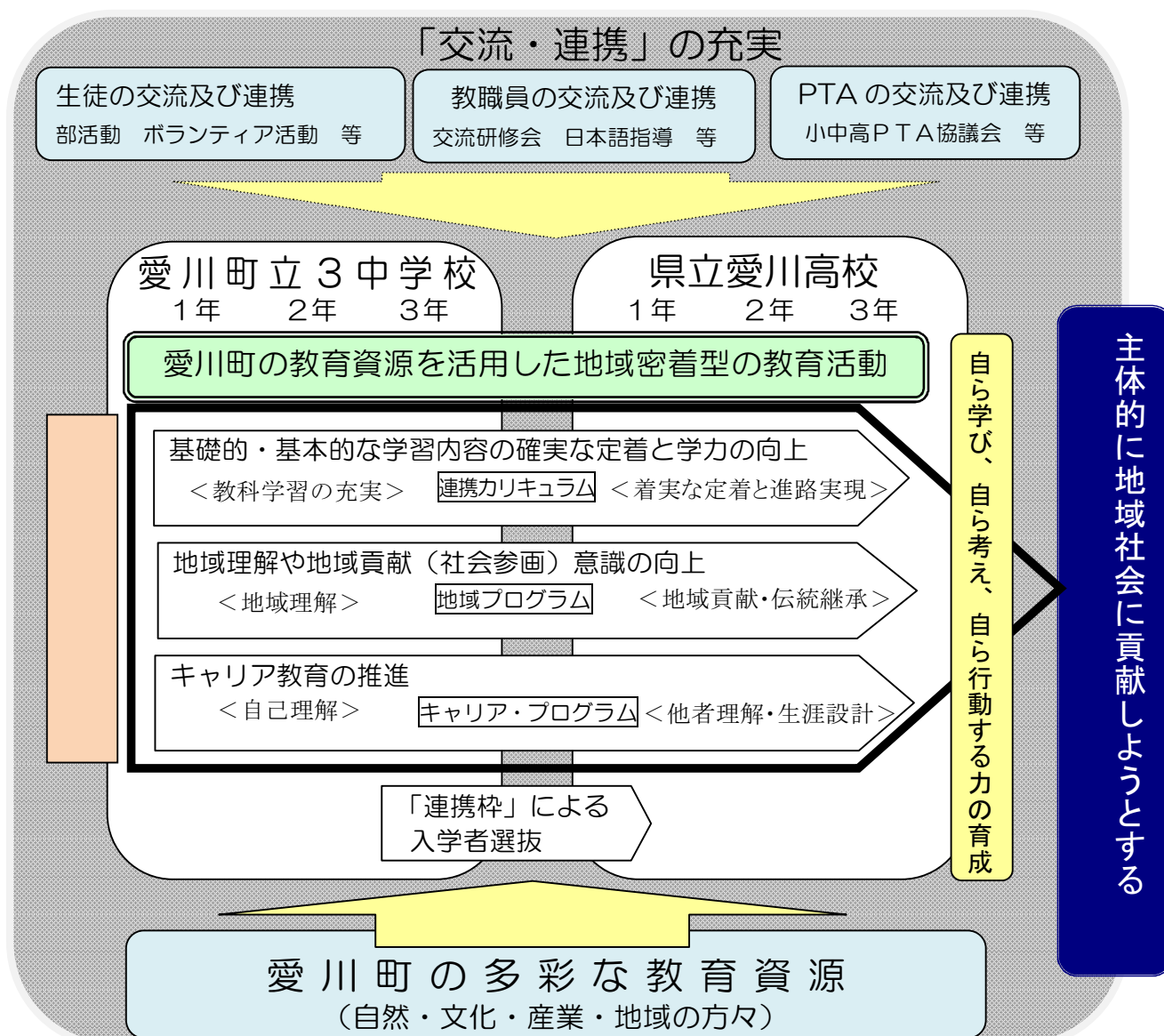
イ 県立愛川高校の教職員が愛川町立3中学校において授業等を行うことで、中学校の指導内容等に理解を深めた高校教職員により、わかりやすい授業を受けることができる。

ウ 愛川町立3中学校の生徒や教職員との交流を通じて、より豊かな人間関係構築力を育成することができる。

(3) 愛川町にとって

ア 愛川町立3中学校及び県立愛川高校生徒によるさまざまな地域理解や地域貢献の取り組みを通じて、愛川町での地域活動の活性化を図ることができる。

イ 愛川町立3中学校と県立愛川高校との「連携型中高一貫教育」への関心の高まりにより、愛川町における教育活動の活性化や、教育力の向上を図ることができる。



### Ⅲ 連携型中高一貫教育の展開方法

愛川町立3中学校と県立愛川高校は、これまでも「生徒の交流」「教職員の交流」「PTAの交流」を中心に、さまざまな「交流・連携」を行ってきた。今後は、主体的に地域社会に貢献しようとする意欲をもった行動力あふれる人材の育成のため、「交流・連携」を充実させるとともに、新たに、「連携型中高一貫教育」としての教育活動に取り組むことで、より緊密な連携教育活動を展開する。

また、県立愛川高校にあっては、地域に根ざした特色ある高校として、これまで以上に地元のさまざまな期待に応えられるような学校づくりを行うとともに、その取組み状況については積極的に広報することで、地域の理解や協力を得ながら「連携型中高一貫教育」を推進していく。

#### 1 「交流・連携」の充実

##### (1) 生徒の継続的な連携活動

＜方向性＞ 愛川町立3中学校生徒による県立愛川高校の運動部や和太鼓部等の部活動への参加体験の実績を踏まえ、県立愛川高校の施設や指導者などの教育資源を有効に活用し、中学校・高校の部活動交流を促進するとともに、愛川町の行事等へ中・高生徒がボランティアとして積極的に参加できるよう支援する。

##### ＜具体的方策＞

〔拡充〕(ア) 中・高生徒の交流ニーズの把握や技術向上方法の研究を踏まえた部活動交流

##### ＜取組み＞

- 「地域に応援される部活動」をめざし、地域に開かれた部活動の展開
  - ・ 中学生との合同練習会の実施（サッカー・バレーボール・バスケットボール・吹奏楽・和太鼓等）
  - ・ 県立愛川高校教職員による中学生への指導と施設の開放（ソフトテニス・卓球・柔道等）
  - ・ 愛川町民を含めた生涯スポーツ交流会の検討（剣道、野球、陸上、カヌー、ラグビー等）
  - ・ 宮ヶ瀬湖で毎年11月開催される「ボートを漕ごう会」への町民との参加の検討



サッカー



和太鼓

〔拡充〕(イ) 中・高生徒の発達段階に応じたボランティア活動や合同行事

##### ＜取組み＞

- 県立愛川高校生徒によるボランティア活動や、文化行事への積極的な参加
  - ・ 町内小学校連合運動会や町内合唱祭における運営スタッフとして、準備等の運営の補助
  - ・ ジュニアリーダーとして、町内会の活動補助
- 愛川町社会福祉協議会主催「ボランティア体験」での中・高合同参加形態等の検討
- 愛川町立3中学校と県立愛川高校の合同音楽祭や芸術鑑賞会の開催の検討

## (2) 教職員の継続的な連携活動

ア 中・高教職員の共同研修、高校教職員の中学校への派遣等

＜方向性＞ 愛川町立3中学校及び県立愛川高校の全教職員を対象とした研修会等の開催や、愛川町立3中学校に派遣された県立愛川高校の教職員と各中学校教職員との連携等を通じて、取組み成果や課題を共有する。

### ＜具体的方策＞

**新規**(ア) 中・高教職員による共同授業・研修・研究の実施

愛川町立3中学校及び県立愛川高校の教職員がこれまで行ってきた連携活動を踏まえ、次の共同授業・研修・研究を実施する。

- ① 中学校（さらには小学校）の授業や教育活動への高校による支援策の検討、研究
- ② 中・高間での派遣によるTT（注）による授業等、授業改善に向けた、各種実態調査と研究

（注）TT（ティームティーチング）：複数の教員が共同・協力して学習指導にあたること。個に応じた多様な教育を展開するための指導方法。

- ③ 中・高全教職員（可能であれば小学校も）を対象とした研修会の実現
- ④ 中・高教職員対象の教科指導連絡会の開催
- ⑤ 中・高生徒の交流活動時の教職員の指導体制や事故への対応・連絡方法の確立

### ＜取組み＞

#### ○ 異校種への1日留学研修の実施

・1日留学方式により、異校種（小・中・高）の学校で1日を過ごし、授業参観、授業講師を務めるなどの教育活動に参加

	県立愛川高校から小・中へ	小・中から県立愛川高校へ
16年度	2名	—
17年度	3名	—
18年度	4名	1名（小学校教職員）
19年度	10名	2名（小学校教職員・中学校教職員）
20年度	6名	2名（小学校教職員・中学校教職員）

#### ○ 愛川町立3中学校の授業に、県立愛川高校の教職員がTTとして参加することの検討

対象教科 数学・英語など、中学校と高等学校で継続性の高い教科

対象学年 原則として中学3年生

授業展開 実施する教科の進度・内容等は中・高で調整し、愛川町立3中学校では既に導入している少人数クラス展開を継続するとともに、学習内容に応じて習熟度等の視点も加味したクラス編成を工夫する。

#### ○ 教科別授業研究の推進

- ・県立愛川高校での小・中教職員向けの授業公開
- ・県立愛川高校教職員が小・中の授業を参観

#### ○ 愛川町立3中学校と県立愛川高校の教職員で合同研究会を組織し、各種プログラムの研究・開発

- ・中・高の各学年や各教科・単元に応じた、基礎的・基本的な学習内容確認のためのミニドリルやミニテストの作成
- ・愛川町立3中学校における長期休業期間後の共通課題確認テストの研究・開発
- ・学習習慣や読書習慣の確立のため、中・高を通じた朝読書、朝ドリル、昼ドリル等の効果的な実践についての研究
- ・小学校教職員も含めた、中・高教職員による野外教育活動のプログラム開発や実践研究

イ 中・高教職員人事交流の推進

＜方向性＞ 連携型中高一貫教育を踏まえた中・高教職員のための新たな人事交流システムを構築する。

＜具体的方策＞

新規(ア) 中・高教職員を対象とした、中・高人事交流の推進

＜取組み＞

- 県立愛川高校及び愛川町立3中学校の人事交流の推進

ウ 国際化に伴う日本語学習指導の連携及び協力

＜方向性＞ 日本語を母語としない愛川町在住の児童・生徒を対象として、日本語学習を指導するにあたり、県立愛川高校における実践成果や施設等を効果的に活用して、県立愛川高校を含めた実践研究組織を構築する。

＜具体的方策＞

拡充(ア) 中・高教職員による外国籍生徒への支援体制（日本語学習指導等）の確立

- ① 愛川町立小学校の教職員を交えた小・中・高の教職員による指導方法の共同研究開発
- ② 異文化理解、コミュニケーション力の向上等についての講習の開催
- ③ 進路相談時におけるサポート体制の充実

＜取組み＞

- 愛川町が設置する各種研究会・研修会への県立愛川高校教職員の参加
  - ・愛川町「国際教育研究部会」への県立愛川高校教職員の参加
  - ・愛川町「人権同和教育研修会」への県立愛川高校教職員の参加
  - ・愛川町「外国籍児童生徒等日本語指導協力者派遣事業担当者会議」への県立愛川高校教職員の参加
- 愛川町在住の外国籍児童、生徒や保護者に対し、より開かれた学校をめざし、県立愛川高校での相談体制を拡充
- 愛川町在住の外国籍中学生に配慮した学校説明会の開催（県立愛川高校に在籍する外国籍生徒の活用等）
- 県立愛川高校で進めてきた外国籍生徒の日本語教育に関する早稲田大学大学院との共同研究への愛川町立3中学校の参加



(3) P T Aの継続的な連携活動

＜方向性＞ 町内の児童・生徒の多様化する教育課題に対応できるよう、連携型中高一貫教育の取組みを通じた、小・中・高のP T Aの連携・協力を推進する。

＜具体的方策＞

**拡充**(ア) 小・中・高のP T Aの連携に向けた取組みと既存のP T A組織との関係調整

愛川町立3中学校と県立愛川高校のP T Aを中心に、多様化する教育課題に対応できるよう、連携型中高一貫教育の取組みについて、小学校も含めたP T Aに協力や理解を求めるとともに、既存のP T A組織との関係調整を図り、連携・協力を支援する。

＜取組み＞

- 小・中・高のP T Aの連携・協力
  - ・小・中のP T A広報委員会による広報誌作成のための県立愛川高校の協力
  - ・小・中・高のP T A成人委員会による合同芸術鑑賞会の開催
- 愛川町P T A協議会（小・中・高）の確立
  - ・愛川町立小中学校P T A協議会への県立愛川高校P T Aの正式加入

**拡充**(イ) 愛川高校P T Aや愛川町民を対象とした、愛川コミュニティスクールの充実

＜取組み＞

- 県立愛川高校の施設等の活用による、県立愛川高校P T Aや愛川町民を対象とした、愛川コミュニティスクールの開催
  - （平成19年度 スポーツ2講座、音楽3講座、教養4講座 計9講座開講）
  - （平成20年度 スポーツ1講座、音楽3講座、教養1講座 計5講座開講）
- 県立愛川高校文化祭「“A・I・K・A・W・A” ～薫風祭～」や、愛川コミュニティスクールを通じた愛川町民との交流



愛川コミュニティスクール  
（スポーツ講座：テニス）



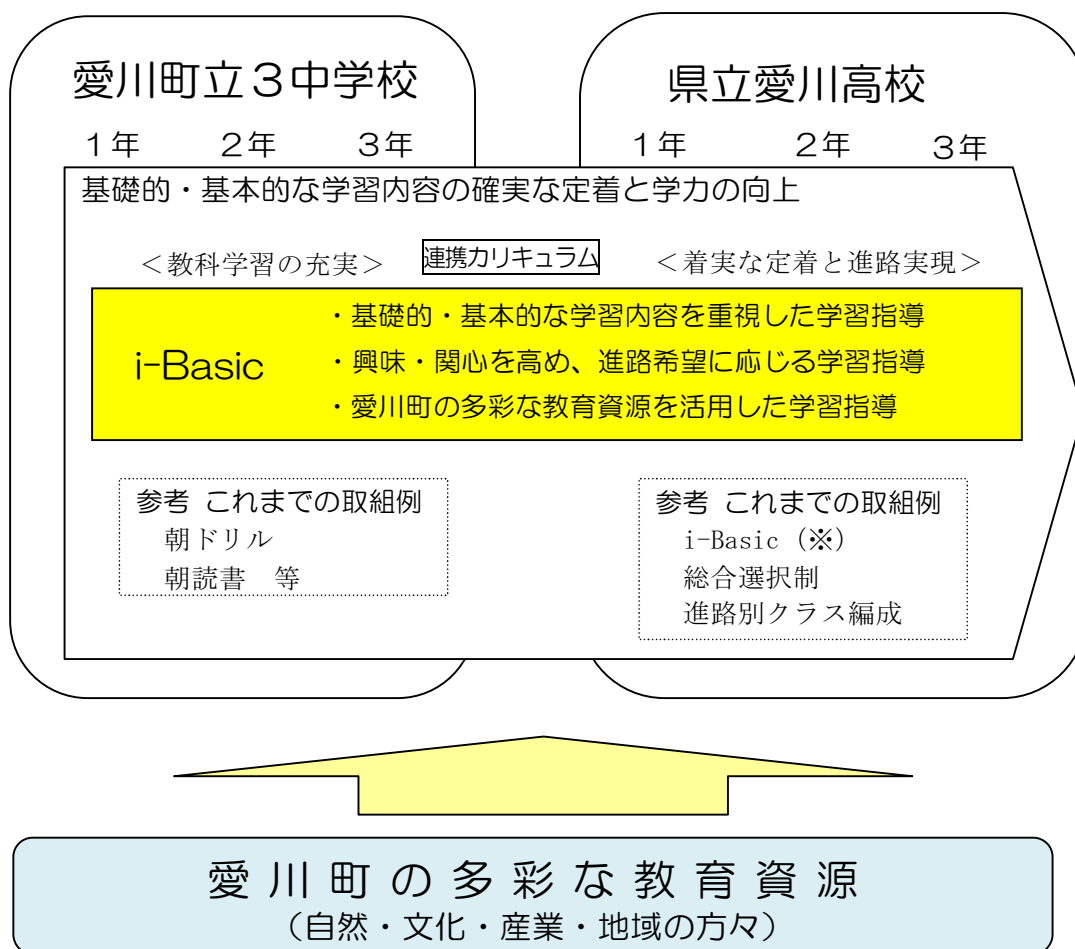
薫風祭での県立愛川高校生徒と愛川コミュニティスクール参加者によるオカリナ演奏

## 2 連携型中高一貫教育としての教育活動展開へ

### (1) 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と学力の向上

＜方向性＞ **連携カリキュラム**の構築

愛川町立3中学校と県立愛川高校では、基礎的・基本的な学習内容を重視し、学習内容の確実な定着と学力の向上をめざした「連携カリキュラム」として、「i-Basic」を展開する。（ただし、各学校においては独自の名称を使用する場合もある。）



(※) ＜参考：県立愛川高校での学校設定科目「i-Basic」の現在の展開方法＞

- ①高校1年生までの各教科(国語・数学・英語等)の基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るため、各曜日(1時間)、1科目に3枚程度のワークシートを段階的に学習する。
- ②教員はTT(チームティーチング:P5参照)で対応し、机間指導しながら個別指導を行う。
- ③生徒が理解するまで丁寧に取り組み、達成感や成就感を通じて、生徒の学習意欲や自信を高める。

## <具体的方策>

### (ア) 基礎的・基本的な学習内容を重視した学習指導

#### ① 愛川町立3中学校における実践

愛川町立3中学校では、中学校段階での基礎的・基本的な学習内容を重視した教科学習指導をより充実し、学力の定着を図るため、学習内容の継続性が高い教科の中・高教職員によるTTの導入等、きめ細かな学習指導を工夫する。

また、生徒一人ひとりの学習習慣の確立と学習意欲の向上のために、県立愛川高校の教職員との定期的・継続的な連携研修・研究により、段階的に取り組めるワークシート（ミニドリル、ミニテスト等）の開発をめざす。

#### ② 県立愛川高校における実践及び研究

県立愛川高校においては、平成20年度から導入している学校設定科目「i-Basic」を充実し、県立愛川高校生徒の基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と学習習慣の確立を図るとともに、放課後や休日等における中学生の参加も視野に入れた、生徒の自主学習会（英・数・国・社・理）等の研究を進める。

### <取組み>

#### ○ 愛川町立3中学校の授業に、県立愛川高校の教員がTTとして参加することの検討（再掲）

対象教科 数学・英語など、中学校と高等学校で継続性の高い教科

対象学年 原則として中学3年生

授業展開 実施する教科の進度・内容等は中・高で調整し、愛川町立3中学校では既に導入している少人数クラス展開を継続するとともに、学習内容に応じて習熟度等の視点も加味したクラス編成を工夫する。

#### ○ 愛川町立3中学校と県立愛川高校の教職員で合同研究会を組織し、各種プログラムの研究・開発（再掲）

- ・中・高の各学年や各教科・単元に応じた、基礎的・基本的な学習内容確認のためのミニドリルやミニテストの作成
- ・愛川町立3中学校における長期休業期間後の共通課題確認テストの研究・開発
- ・学習習慣や読書習慣の確立のため、中・高を通じた朝読書、朝ドリル、昼ドリル等の効果的な実践についての研究

#### ○ 愛川町立3中学校生徒と県立愛川高校生徒による長期休業期間中の合同勉強合宿

#### ○ 県立愛川高校の学校設定科目「i-Basic」の多様な展開の検討

- ・さまざまな分野（英単語、漢字、古語、計算力、時事問題等）の発展的内容を含んだ多様な展開

(イ) 生徒一人ひとりの興味・関心を高め、進路希望に応じる学習指導

① 愛川町立3中学校における取組み

県立愛川高校で開講している選択科目の一部について、県立愛川高校の教職員が、愛川町立3中学校においてスポット授業を行うこと等により、中学生の多様な学習に関する興味・関心・意欲の喚起を行う。

② 県立愛川高校における取組み

県立愛川高校では、生徒一人ひとりの興味・関心や進路希望に対応した多様な学習指導（進路別クラス編成や総合選択制）を充実する。

また、キャリア・ガイダンスを充実し、適切な科目選択や学習相談にきめ細かく対応する等、幅広い進路実現に向けた支援体制を構築していく。

<取組み>

- 県立愛川高校で展開している多彩な選択科目の一部を、愛川町立3中学校において、スポット授業（週1～2時間程度）として展開
- 県立愛川高校で、中学生（高校生との合同も含む）を対象とした講座の開設の検討  
期間 通年（放課後）、短期（5日程度 放課後・夏休み）、スポット（1日程度夏休み）  
などさまざまな参加期間を設定
- 内容 ・学校設定科目の集中講座 ・理科実験講座  
・資格取得補習 ・キャリア講演会 等
- 県立愛川高校での進路別クラス編成の工夫

(ウ) 愛川町の多彩な教育資源を活用した学習指導

愛川町の多彩な教育資源（自然・文化・産業・地域の方々）を活用した効果的な学習方法について、愛川町立3中学校と県立愛川高校の教職員による共同研究を進める。

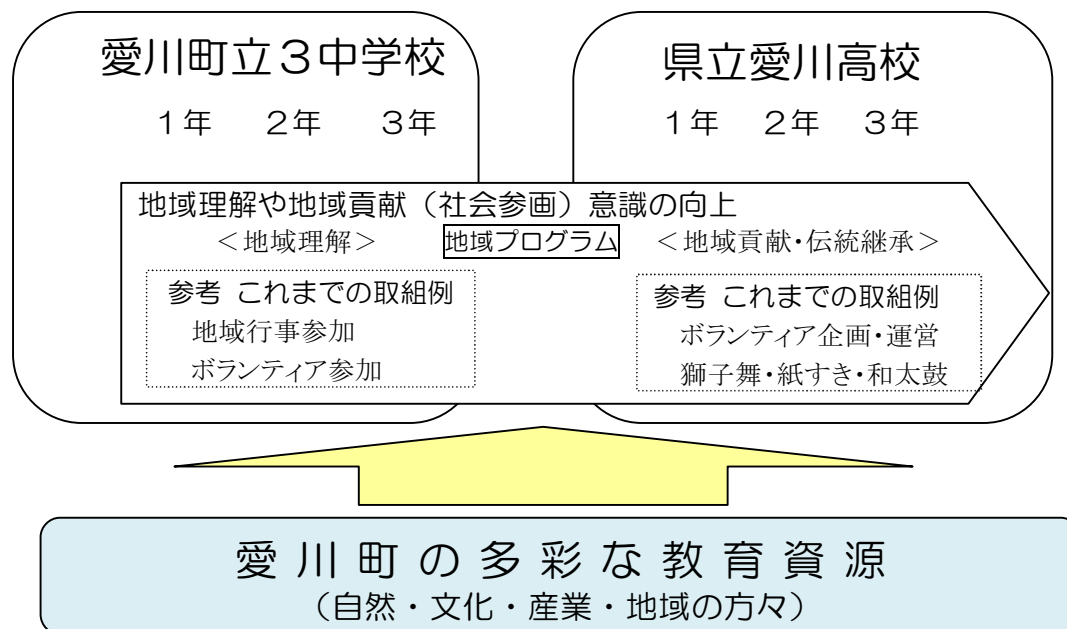
<取組み>

- 愛川町立3中学校及び県立愛川高校での共通したテーマ等の研究（国際、郷土芸能等）
- 愛川町の歴史、文化、産業等を学び、地域理解を深めるプログラム「愛川学」（仮称）の開発研究（愛川町立3中学校共通プログラム及び県立愛川高校プログラムの作成と、中・高連携プログラムの研究）
- 県立愛川高校の学校設定科目「伝統文化」の活用  
・愛川町立3中学校生徒への講習会の開催

## (2) 地域理解や地域貢献（社会参画）意識の向上

### <方向性> 地域プログラムの構築

愛川町の多彩な教育資源を活用し、地域への理解・愛着を深め、進んで社会に貢献しようとする意欲を引き出すため、愛川町立3中学校と県立愛川高校の教職員により、「地域プログラム」構築に向けた共同研究を行う。



### <具体的方策>

#### (ア) 「地域プログラム」の構築

愛川町のために進んで貢献しようとする意欲を引き出す学習の研究を進め、実践プログラムとなる「地域プログラム」を構築する。

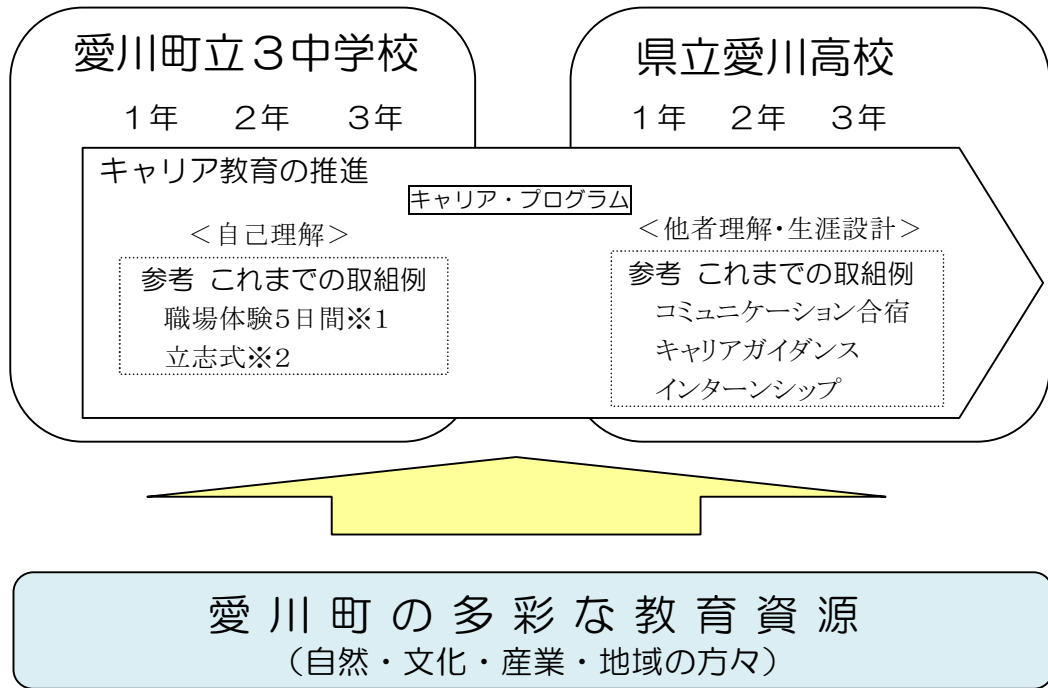
#### <取組み>

- 地域貢献デーへの参加
  - ・県立高校全校で実施している「地域貢献デー」に併せて、愛川町立3中学校と県立愛川高校による合同での取組みの実施
- 愛川町民との交流
  - ・県立愛川高校文化祭「“A・I・K・A・W・A” ～薫風祭～」や、愛川コミュニティスクールを通じた愛川町民との交流（再掲）
  - ・愛川町にある学校（愛川町立6小学校・愛川町立3中学校・県立愛川高校）の教育活動を、愛川町民や愛川町内に勤務する方々に広くご参加いただき、さまざまな形で支援していただけるよう、人材登録や企画立案等を行う「愛川町学校教育支援組織」（仮称）の設置の検討
- 愛川町立3中学校及び県立愛川高校の生徒会の交流
  - ・多彩な学校行事の活性化を図ることを目的とした生徒会の交流
  - ・地域ボランティア活動や伝統文化の継承活動の企画・運営について、生徒が主体的に取り組むための組織「中高生による愛川町プロジェクトチーム」（仮称）の設立
- 「愛川子ども議会」への参加や町政視察
  - ・地域社会での課題発見能力、地域社会へ寄与する姿勢や参画意欲を高めるため、「総合的な学習の時間」や行事等を活用

### (3) キャリア教育の推進

#### <方向性> **キャリア・プログラム**の構築

愛川町立3中学校と県立愛川高校の生徒の進路指導支援や、愛川町内の若者を対象としてキャリア教育の支援を行う組織について検討を進めるとともに、愛川町の多彩な教育資源を活用した、キャリア教育を効果的に展開するための「キャリア・プログラム」を構築する。



※1 愛川町立3中学校では、キャリア・スタート・ウィーク推進地域協力校の指定を受け、中学2年生全員が5日間の職場体験に参加している。

※2 愛川町の中学2年生全員が参加し、将来に向け志を新たにする催し（毎年2月開催）



立志式  
(愛川町HPより)

#### <具体的方策>

##### (ア) キャリア支援組織の設置に向けた検討

キャリア教育や進路に関する資料・情報を収集するとともに、キャリア支援を行う組織の設置に向けた検討を行う。

#### <取組み>

- 「キャリア教育支援センター」を県立愛川高校内に設置することについての検討
- かながわ若者就職支援センターによる出前授業や講演会の開催
  - ・愛川町立3中学校と県立愛川高校の生徒を対象とした出前授業の開催
  - ・愛川町立3中学校と県立愛川高校のPTAを対象とした講演会の開催

(イ) 「キャリア・プログラム」の構築

愛川町立3中学校及び県立愛川高校の生徒の望ましい職業観を育成し、愛川町についての幅広い視点による理解を深めるため、愛川町内の職場体験、インターンシップ等の充実を図るとともに、発達段階に応じた体験内容や、受け入れ先の開拓、効果的な事前・事後指導方法の研究を、愛川町立3中学校及び県立愛川高校が連携して推進する。

また、愛川町の多彩な教育資源を活用した、キャリア教育を効果的に展開するための「キャリア・プログラム」を構築する。

<取組み>

- 愛川町立3中学校で取り組むキャリア・スタート・ウィークの充実を図りながら、県立愛川高校の「キャリア教育実践推進プログラム」への接続を見通した、キャリア・プログラムの構築
- 高校生のインターンシップ参加率の向上を図るため、地元企業等の協力のもと、職場体験の多様な参加形態の研究開発
- 愛川町立3中学校で取り組む職場体験と、県立愛川高校で取り組むインターンシップの効果的な接続等について研究を行い、職場体験活動に関する「中高連携接続キャリア教育モデル」を県内中学校、高校等へ発信
- 地元産業界の方々（内陸工業団地やハイテク研究所団地の技術者・経営者、地場産業である繊維産業関係者、農家の方々等）を講師に招いた中・高合同キャリア講演会の開催
- 県立愛川高校における社会体験活動の充実
  - ・生徒全員が卒業までにインターンシップやボランティア等社会体験活動に参加し、単位取得できるよう実践・研究を進め、普通科高校の先駆的取組みとして発信
- さまざまな体験的学習活動の活用
  - ・愛川町の自然や農業等に関する観察意欲・研究意欲の向上による地域社会に対する意識の高揚
  - ・県立愛川高校のキャリア・ガイダンスとの接続等の研究



愛川町の中学2年生全員が参加する  
5日間の職場体験  
(愛川ふれあいの村HPより)

### 3 連携型中高一貫教育推進組織と成果の発信

#### (1) 連携型中高一貫教育推進組織の設置等

＜方向性＞神奈川県教育委員会及び愛川町教育委員会は、連携教育推進のための組織の設置や、学校教育を支援する人材登録や企画立案を行う組織の設置に向けた検討をとおして、充実した連携型中高一貫教育活動を進めるための支援を行う。

#### ＜具体的方策＞

##### (ア) 「愛川町中高連携教育推進委員会」(仮称)の設置

現在、よりよい連携型の中高一貫教育の取組み実現に向けた検討を行っている「神奈川県・愛川町中高連携教育推進検討委員会」を基盤として、愛川町の教育資源を活用した連携教育に必要な、さまざまな立場の方々から構成する委員会を設置し、連携教育推進組織とする。

##### (イ) 「中高連携連絡協議会」(仮称)の設置

愛川町立3中学校及び県立愛川高校の学校行事や各教科、生徒会の取組み等に関して、連携する4校が情報を共有し、連携教育活動の総合プラン策定や各事業を円滑に展開するため、連絡協議会を設置する。

##### (ウ) 「愛川町学校教育支援組織」(仮称)の設置(再掲)

愛川町にある学校(愛川町立6小学校・愛川町立3中学校・県立愛川高校)の教育活動を、愛川町民や愛川町内に勤務する方々に広くご参加いただき、さまざまな形で支援していただけるよう、人材登録や企画立案等を行う組織の設置を検討する。

#### ＜取組み＞

##### ○ 「愛川町中高連携教育推進委員会」(仮称)の設置

構成員 愛川町民代表、愛川町立3中学校・県立愛川高校各PTA代表、愛川町立3中学校長、県立愛川高校長、愛川町小学校長会代表、各産業界の代表、関係教育委員会職員等

##### ○ 「中高連携連絡協議会」(仮称)の設置

構成員 愛川町立3中学校及び県立愛川高校の代表

##### ○ 「愛川町学校教育支援組織」(仮称)の設置の検討(再掲)

#### (2) 連携型中高一貫教育の取組成果の発信

＜方向性＞基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と学力の向上をめざした、「連携カリキュラム i-Basic」の取組みをはじめ、「地域プログラム」、「キャリア・プログラム」といった実践研究による成果を積極的に発信し、本県の中高連携教育の充実に資する取組みを進める。

#### ＜具体的方策＞

##### (ア) 公開授業と研究討議の積極的な開催

「学校へ行こう週間」等を活用して、愛川町立3中学校及び県立愛川高校において共同企画による授業等を行い、広く町民・保護者へ連携型の教育の理解を求めるとともに、地区の教職員研修会を活用した研究授業や研究討議を積極的に開催する。

#### ＜取組み＞

○ 町民・保護者等に対しては、「学校へ行こう週間」の活用や広報誌等による、連携教育の取組みについての周知

○ 県内中学校・高校等教育機関に対しては、「連携カリキュラム i-Basic」や「中高連携接続キャリア教育モデル」等の実践研究の内容について公表



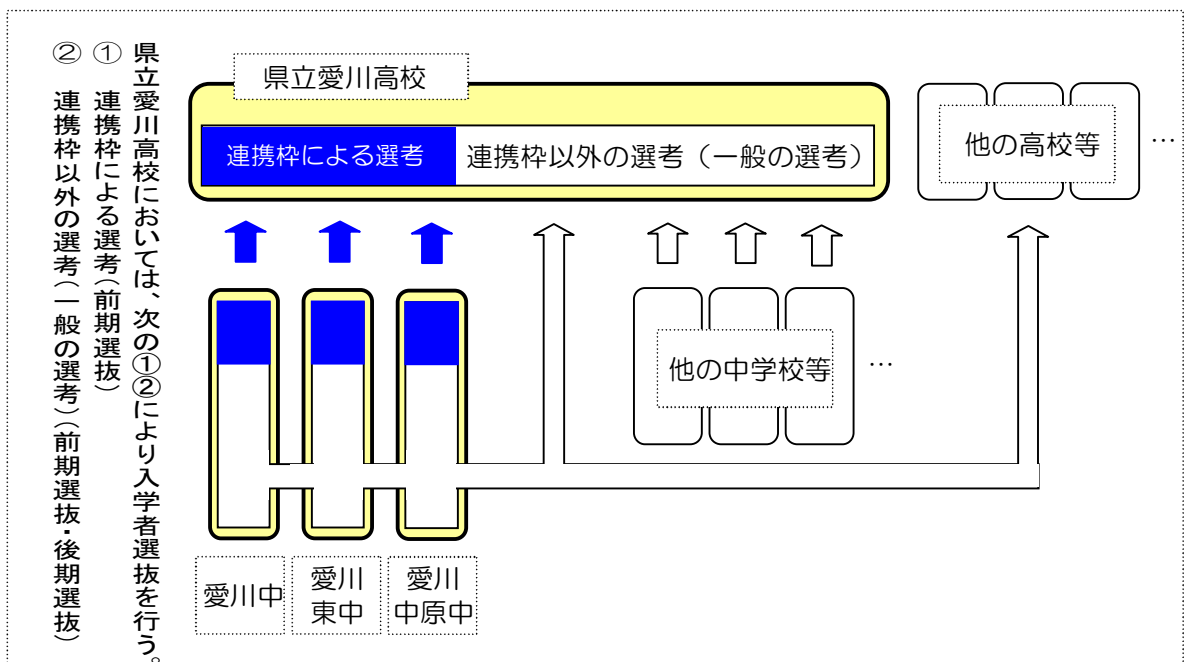
## IV 県立愛川高校での入学者選抜

### 1 「連携枠」による入学者選抜

- (1) 実施方針：連携型中高一貫教育校であることを踏まえ、調査書や学力検査によらない入学者選抜を行い、平成 22 年度から入学者の受入れを行う。
- (2) 募集人数：「連携枠」による募集人数は、当面入学者定員の 2 割相当とし、入学者選抜の実績を踏まえ、更なる拡大を検討する。
- (3) 選抜方法：
  - <日程> 県立高校の前期選抜の日程と併せて実施する。
  - <志願条件> 次のア～ウの条件を全て満たすこと
    - ア 愛川町立 3 中学校に在学している生徒で、県立愛川高校の教育方針や連携型中高一貫教育等を理解した上で、県立愛川高校を第一希望とする者
    - イ 愛川町立 3 中学校において、中高連携活動等に積極的に取り組むなどにより、一定の成果をあげた者
    - ウ 在籍する愛川町立中学校長の推薦を得た者
  - <選考方法> 志願にあたって提出する項目別自己 P R 書（学校独自様式）とそれに基づく面接により、総合的に判断する。

### 2 「連携枠」以外の入学者選抜

- (1) 実施方針：「神奈川県立の高等学校の入学者の募集及び選抜要綱」に基づいた入学者選抜を行う。
- (2) 募集区分：中学校卒業又は中学校卒業見込みの者を募集
- (3) 選抜方法：
  - <前期選抜> 調査書及び面接の結果に基づく総合的な選考
  - <後期選抜> 調査書及び学力検査の結果に基づく選考
- (4) その他：愛川町立 3 中学校の生徒で、上記 1（3）の<志願条件>を満たすことができなかった者については、「連携枠」以外の一般の受検者と同様の内容で、前期選抜及び後期選抜に志願することができる。



(参考資料)

## I 愛川町の概要 (多彩な教育資源)



平成20年7月20日  
愛川町諏訪神社祭礼に奉納された  
三増の獅子舞 (愛川高校生徒も参加)



### 1 自然 ~愛川ふれあいの村等で、宿泊体験や炭焼き、野鳥・星座観察ができます。

神奈川県中央部に位置し、都心から50km圏内、横浜から30km圏内にあり、町の西部には丹沢山塊の東端にあたる仏果山を最高峰とする山並みが連なり、東南部には相模川と中津川にはさまれた標高100m前後の台地が広がる中央部のくびれた“ひょうたん形”の地形となっています。

山あり、川あり、自然と調和した美しい緑豊かな町が形成されています。(※1)

主な施設等

・愛川ふれあいの村 ・県立愛川公園 ・宮ヶ瀬ダム ・八菅神社の社叢林 ・塩川滝

### 2 歴史・文化 ~三増の獅子舞等大切に継承してきた郷土芸能があります。

町には数多くの文化財が残されています。修験の拠点として栄えた八菅山には「八菅山修験道旧跡」のほか、戦国時代に北条軍、武田軍双方で四千余人が討死する激戦があったと伝わる「三増合戦場跡」、優雅で繊細に施された彫刻をもつ竜福寺と勝楽寺の山門、全国的に有名な郷土芸能「三増獅子舞」など、多種多様です。また、近代の愛川の歴史を知る上で重要な撚糸工場(小島末儀撚糸工場：八丁式撚糸機とその関連機器一式)も復元されています。(※2)

### 3 産業 ~様々な分野でのインターンシップ(職場体験)にご協力いただいています。

○農業 愛川町の農業は、養鶏を中心に行われており、特に「鶏卵」は、町の農業粗生産額の約7割を占めています。また、「かんしょ・ぶどう・くり」等の観光農業も盛んです。(※3)

○工業 昭和41年から造成された、全国でも有数の規模を誇る神奈川県内陸工業団地があり、自動車部品・金属製品・化粧品などの企業が約150社操業しており、無公害型の工業団

地として高い評価を得ています。県央愛川ハイテク研究所団地では、先端技術・ハイテクテクノロジーなどの研究関連企業6社が、また、大塚下工業団地では約60社が操業しており、機械・金属・化学などの業種が集まっています。(※4)

- 地場産業 半原地域を中心とする繊維産業は、江戸時代からの長い歴史を持つ地場産業（撚糸・織物縫糸・製紐・染色）として、優れた製品を送りだしています。ミシン糸・ネクタイ・スカーフ・ファンデーション・カーテン・刺繍糸など多くの製品があります。(※4)

上記(※1~4)は次のHP等の記載に基づいています。(※1)愛川町HP (※2)広報あいかわ平成20年8月号 (※3)農林水産省HP「わがマチ・わがムラー市町村の姿」 (※4)愛甲商工会HP

<参考> 県立愛川高校の地域に根ざした学校設定科目「伝統文化」

- 地域学習の一環として、平成10年度より「伝統文化」を開講し、「三増（みませ）の獅子舞」及び「海底（おそこ）和紙」について学習し、平成15年度には、「和太鼓」も加わる。
- 伝統芸能・技術のより深い理解者となるとともに、地域の伝統文化のよき理解者となる人材を育てることを目的としている。
- 獅子舞・和紙・和太鼓から一つを選択し、水曜日の5・6校時に授業を実施している。
- 3学年合同の授業で、3年間連続して選択することもできる。
- 1年生で「伝統文化」を履修した生徒の約9割が3年生まで続けて履修している。
- 平成19年度には、地域に根ざした学校設定科目「伝統文化」の活動が認められ、時事通信社第23回教育奨励賞「努力賞」を受賞した。（p16参照）

## II 連携対象校の概要

### 1 愛川町立愛川中学校

○ 所在地 愛甲郡愛川町田代 1395 電話 (046) 281-0094

○ 学校規模(平成20年5月1日)

生徒数・学級数

	1年	2年	3年	計
人数	123	147	122	392
学級数	3	4	3	13(3)

※学級数( )は、特別支援学級数の内数

教職員数 29人(本務者)

○ 愛川高校への進学者

年 度	平成18	平成19	平成20
愛川高校への進学者 (高校進学者数に占める割合)	27人 (22.3%)	19人 (15.2%)	20人 (17.9%)
卒業生総数・高校進学者数	130人・121人	131人・125人	123人・112人

○ 沿 革

昭和22年5月	愛川町立愛川中学校開校
平成8年10月	創立50周年記念式典開催
平成13年6月	文部科学大臣表彰(読書活動)

○ 教育目標・経営方針

◇ 教育目標

- ・思いやりのある心豊かな生徒に育てる。
- ・自ら進んで学習し、実践力に満ちた生徒に育てる。
- ・社会の変化に主体的に対応できる生徒に育てる。

◇ 経営方針

- ・豊かな心 人間として調和のとれた発達を目指し豊かな心と道徳的実践力の育成
- ・確かな学力 個性を生かす教育の充実と基礎的・基本的な学力の充実
- ・望ましい生き方 自ら学ぶ意欲と社会の変化に対応できる能力の育成

研究実績 等

- 平成18年度 文部科学省地域行動連携推進事業協力校  
 県推薦研究校(生徒支援)  
 文科特別支援教育推進事業協力校  
 キャリア・スタート・ウィーク推進地域協力校  
 町教育課題研究委託校
- 平成19年度 県推薦研究校(児童生徒指導)  
 県かながわイキイキスクール実践研究拠点校  
 キャリア・スタート・ウィーク推進地域協力校  
 町教育課題研究委託校
- 平成20年度 県児童・生徒指導研究校  
 県かながわイキイキスクール実践研究拠点校  
 キャリア・スタート・ウィーク推進地域協力校  
 町教育課題研究委託校

## 2 愛川町立愛川東中学校

○ 所在地 愛甲郡愛川町中津 1400 電話(046)285-0029

○ 学校規模(平成20年5月1日)

生徒数・学級数

	1年	2年	3年	計
人数	186	194	191	571
学級数	5	5	5	18(3)

※学級数( )は、特別支援学級数の内数

教職員数 34人(本務者)

○ 愛川高校への進学者

年 度	平成18	平成19	平成20
愛川高校への進学者 (高校進学者数に占める割合)	31人 (18.2%)	30人 (16.5%)	38人 (23.6%)
卒業生総数・高校進学者数	185人・170人	192人・182人	169人・161人

○ 沿革

昭和35年4月	中津中学校・高峰中学校を統合。愛川東中学校として開校
昭和61年4月	愛川中原中と分離(中津・菅原小区が学区)
平成4年4月	国際教室 開設

○ 教育方針・特色ある教育内容

◇ 教育方針

心身ともに健康で、自ら行動できる人間性豊かな生徒の育成

◇ 特色ある教育内容

- 1 学ぶ力を培う学習指導の充実
- 2 集団と個を生かす積極的な生徒指導の充実
- 3 保健安全指導の充実
- 4 生徒が主体的に取り組む特別活動の充実
- 5 具現化に努める学年・学級経営の充実

研究実績 等

- 平成18年度 文部科学省地域行動連携推進事業協力校  
 県推薦研究校(外国人児童・生徒教育・生徒支援)  
 県子ども教育読書活動推進モデル地区拠点校  
 県健康推進学校最優秀賞受賞  
 キャリア・スタート・ウィーク推進地域協力校
- 平成19年度 県推薦研究校(児童生徒指導)  
 県かながわイキイキスクール実践研究波及校  
 キャリア・スタート・ウィーク推進地域協力校  
 特別支援教育体制推進事業協力校
- 平成20年度 県児童・生徒指導研究校  
 県かながわイキイキスクール実践研究波及校  
 キャリア・スタート・ウィーク推進地域協力校  
 特別支援教育総合推進地域協力校  
 文部科学省読書活動優秀実践校表彰

### 3 愛川町立愛川中原中学校

○ 所在地 愛甲郡愛川町角田 210 電話(046)286-2710

○ 学校規模(平成20年5月1日)

生徒数・学級数

	1年	2年	3年	計
人数	125	110	127	362
学級数	4	3	4	13(2)

※学級数( )は、特別支援学級数の内数

教職員数 28人(本務者)

○ 愛川高校への進学者

年 度	平成18	平成19	平成20
愛川高校への進学者 (高校進学者数に占める割合)	19人 (17.0%)	23人 (24.0%)	21人 (21.9%)
卒業生総数・高校進学者数	131人・112人	114人・96人	119人・96人

○ 沿 革

昭和61年 4月	愛川東中学校より分離して開校(生徒数793名、学級数19)
平成17年10月	開校20周年記念式典

○ 教育方針・特色ある教育内容

◇ 教育目標 <元気・根気・やる気>

◇ めざす学校像

「学びの共同体としての学校」の確立を求め、生徒づくり、自分づくりをめざすために

- 1 安心して、楽しく生活できる学校づくり
- 2 授業・部活動・各種行事等に「本気で一生懸命取り組み生きている実感を味わえる学校づくり」
- 3 美しく整備された環境の下、明るいあいさつや歌声が流れる学校づくり

◇ 特色ある教育内容

- 1 学校の自主・自律性の確立
- 2 愛川中原中学校らしい教育活動の推進
- 3 「こころ・いのち」の教育の充実
- 4 開かれた学校、信頼される学校づくり

研究実績 等

- 平成18年度 文部科学省地域行動連携推進事業中心校  
県推薦研究校(生徒教育・生徒支援)  
文科特別支援教育推進事業協力校  
キャリア・スタート・ウィーク推進地域協力校
- 平成19年度 県かながわイキキスクール実践研究波及校  
キャリア・スタート・ウィーク推進地域協力校
- 平成20年度 県かながわイキキスクール実践研究波及校  
キャリア・スタート・ウィーク推進地域協力校  
町教育課題研究委託校

#### 4 神奈川県立愛川高等学校

○ 所在地 愛甲郡愛川町三増 822-1 電話 (046) 286-2871

○ 学校規模(平成20年5月1日)

生徒数・学級数

	1年	2年	3年	計
人数	240	189	160	589
学級数	6	6	6	18

教職員数 57人(本務者)

○ 愛川高校の総生徒数のうち、愛川町立の3中学校出身者の占める割合

年度	昭和58	昭和61	平成3	平成8	平成13	平成18	平成19	平成20
愛川町立	68.6	77.4	64.3	54.3	46.5	41.5	36.0	34.2
3中学校計	%	%	%	%	%	%	%	%

○ 沿革

昭和57年9月	県立学校新設高校準備開始
昭和57年12月	校名「神奈川県立愛川高等学校」知事発表
昭和58年1月	神奈川県立愛川高等学校設置(県立厚木北高等学校)
昭和58年3月	神奈川県立厚木北高等学校より移転
昭和58年4月	開校
昭和59年6月	校舎落成式を挙げる
平成2年3月	プール完成引き継ぎ
平成10年4月	伝統文化開講(三増獅子舞、海底和紙)
平成15年11月	創立20周年記念式典挙げる

○ 教育方針・特色ある教育内容

◇ 教育方針

豊かな心を養い健やかな身体を培う

○自然を愛し、人を愛す。

○規律を重んじ、知性を磨く。

○身体を鍛え、不屈の心を養う。

◇ 特色ある教育内容

○多様な進路希望に対応した学習指導…選択科目の多様化

○資格取得を目指す教育

○地域学習の取組み…伝統文化(三増の獅子舞、和太鼓、海底和紙)

○部活動の活性化

研究実績 等

平成18年度 文部科学省学力向上拠点形成事業(確かな学力育成のための実践研究事業)指定校  
文部科学省人権・同和教育研究指定校

文部科学省(我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業)指定校  
神奈川県教育委員会高等学校人権・同和教育研究指定校

平成19年度 文部科学省学力向上拠点形成事業(確かな学力育成のための実践研究事業)指定校  
文部科学省人権・同和教育研究指定校

文部科学省(我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業)指定校  
神奈川県教育委員会高等学校人権・同和教育研究指定校

平成20年度 文部科学省学力向上拠点形成事業(確かな学力育成のための実践研究事業)指定校